

魚介救命装置 を活用しませんか？

弊社は、陸上養殖では難しいと言われている「クロアワビ」を独自の装置で、飼育水の95%を循環し、新しい海水を5%補給する方法で育てており、特許を取得し、更なる研究も続けています。

魚介を陸上で高密度に飼育すると、アワビに限らず、残餌や排泄物による水質の劣化が起こったり、細菌や寄生虫の感染症が発症して問題となっているようです。

弊社が開発したこの装置は、これらの問題点についてかなりの点まで解決できることを確認しました。

まずは、是非、デモ機をお試しく下さい。

既存施設の改良を提案します

- 既存施設の問題点聞き取り調査
まずは、既存施設のお困りごとを伺い、改良すべき事項をピックアップします。
- 既存施設の状況確認
既存施設の設備の状況及び、水質調査を行いお困りごとの原因を探ります。
- 既存施設にデモ機設置
既存施設の問題解決に有効な機種
のデモ機を設置し、水質の変化や、マッチング状況を確認します。
- 既存施設に合ったプランのご提案
一番いいデモ状況になったことを確認した上で、プランのご提案を行います。

「魚介救命装置」は、日本冷熱の特許を活用し、純酸素を使用せず溶存酸素濃度（DO値）をハイレベルに維持する画期的な機械です。

水槽等で高密度に飼育すると、酸素不足になり、衰弱・斃死が発生するとの考えで、その対策として、純酸素を補給されることが多いようです。

しかし、文献や弊社の研究結果によれば、この呼吸障害の一番の原因は、魚が摂餌等の激しい運動の後に排出する大量の二酸化炭素が、水中に素早く溶解・拡散し、水中のガス分圧が魚介の体内より高くなるために、魚介が二酸化炭素を排出できないことだと考えられます。

したがって、このような場合には、酸素の補給よりも、まずは、二酸化炭素の中和によるガス分圧の軽減が必要であるということになります。

この装置は、水中の二酸化炭素の中和作用を適正に行い、純酸素ではなく、空気を微細気泡で気液混合します。空気だけで溶存酸素濃度を95～105%に維持できることも実証していますので、純酸素を使う必要がない分、かなりのコストダウンが期待できます。

また、この装置は、水中に発生したアンモニアイオンをガス化させ、空气中に放出する作用もありますので、水中のアンモニア除去に効果的です。

さらに、UFBタイプの機種は、大型細菌や原虫類の細胞を破壊するため諸疾患の予防効果にも実績があります。



本社：長崎市元船町14番10号 橋本商会ビル8階

担当部署：水産開発（神の島工場）長崎市神の島町1丁目367番地21

TEL095-865-4222 FAX095-865-7491